

2009年1月28日

各位

日本BPM協会

## 市場低迷下でも「業務の可視化・改善サイクル」を回す企業の4割強が、好業績を実現

「業務の可視化・改善サイクル」が回る企業の5割強はプロセス志向土壌が豊か

— 日本BPM協会がプロセス志向イノベーション推進会議と調査 —

日本BPM協会(東京都港区虎ノ門4-3-1、会長:秋山守由)は、プロセス志向イノベーション推進会議とともに、昨年秋に日本の主要企業約2500社の業務改革部門、経営企画部門に対し「業務の可視化・改善力に関する実態調査」を実施し、257社から有効回答が得られました。

すでに、昨年12月25日に、その速報を発表いたしました。その後、日本BPM協会にて、さらに分析を進め、興味深い3つの特徴を見出しました。

### 1) 市場低迷下でも「業務の可視化・改善サイクル」を回す企業の4割強は好業績を実現する。

市場低迷(市場縮小、横ばい、不安定な市場)下にあつて、業務の可視化・改善サイクルを高いレベルで回している企業の42%は、売上高成長率・営業利益率が業界上位の業績を達成しています。業務の可視化・改善サイクルを高いレベルで回すことが、市場低迷下で好業績を実現する鍵となっていることが実証されました。

なお、成長市場では、このような顕著な傾向は見られません。業務の可視化・改善サイクルは、市場低迷下においてよりその真価を発揮するものといえます。

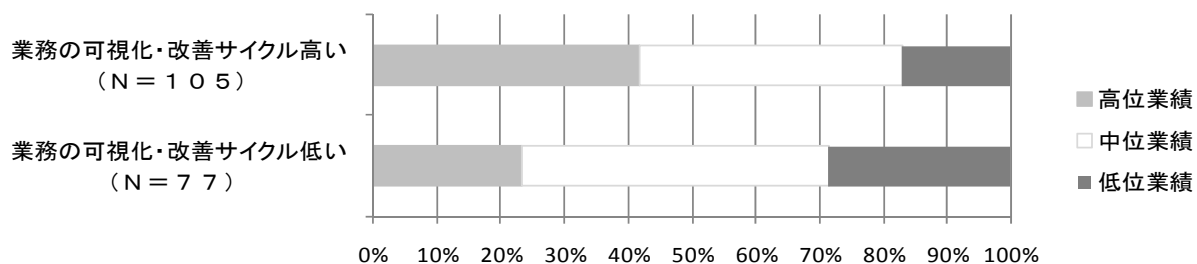


図1. 市場低迷下にある企業の「業務の可視化改善サイクル」のレベルと業績水準

### 2) 「業務の可視化・改善サイクル」が回る企業の5割強はプロセス志向土壌が豊か。

昨年12月25日の速報にて、「プロセス志向土壌の豊かな企業は、IT投資を高業績につなげている」ということを、プロセス志向イノベーション推進会議が発表しました。(詳細はこちら <http://www.bpm-j.org/poic/>)

この「プロセス志向の土壌」を育む活動として注目されるのが、業務の可視化・改善サイクルの実践です。今回の調査から、業務の可視化・改善サイクルのレベルが高い企業の5割強がプロセス志向土壌が豊かであるのに対し、可視化・改善サイクルレベルの低い企業では、その比率が1割にも満たないことが判明しました。

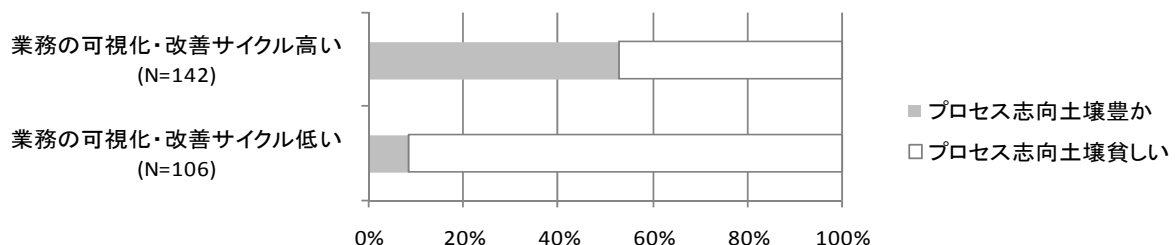


図2. 業務の可視化・改善サイクルとプロセス志向土壌の関係

これを、1)の結果と合わせると、業務の可視化・改善サイクルを回す企業が、プロセス志向土壌を豊かにし、IT投資を業績につなげている企業といえます。

# NEWS RELEASE

## 3) ビジネス・プロセス・マネジメント(BPM)を実施している企業の8割強は、「業務の可視化・改善サイクル」のレベルが高い。

業務プロセスの可視化・改善サイクルを高いレベルで回す活動として、注目されているのがBPMという経営手法です。実態調査から、このBPMの手法・ツールを導入し、実施している企業の86%では、可視化・改善サイクルが高いレベルで回っていることが確認されました。この結果から、BPMが業務の可視化・改善サイクルを高める手法として効果的であることが実証されました。

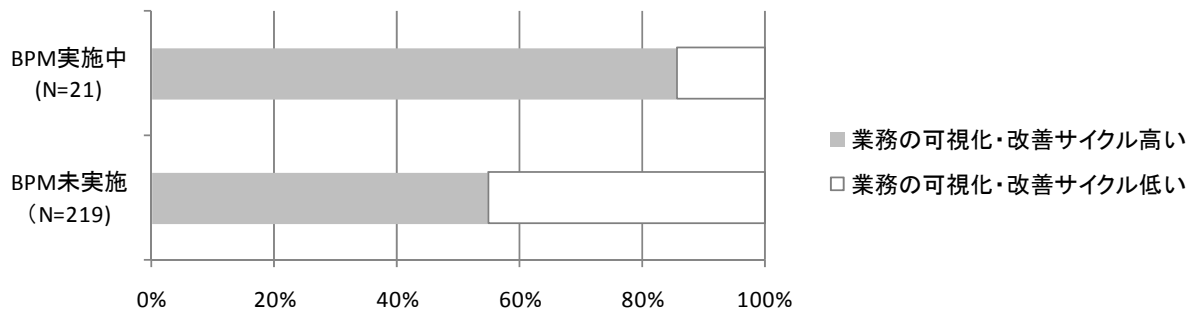


図3. BPMの実施状況と業務の可視化・改善サイクルのレベル

### ◆本発表内容を含む詳細資料の入手方法

本発表資料の詳細資料は、2009年2月17日開催予定の「プロセス志向イノベーションフォーラム～激変環境を勝ち抜くプロセス志向の企業づくり～」にて、参加者に配布いたします。

フォーラムでは、以下のセッションにて、「プロセス志向の土壌」とIT投資、業績の関係が解説されます。

K-2:「仕事のつながり力」が高業績を産む: 東京工業大学 教授 飯島 淳一氏

また、「業務の可視化・改善」と、その手法であるBPMの事例・手法・ソリューションについての講演、展示が行われます。フォーラム概要はこちら→ <http://www.bpm-j-forum.org/>

### ◆「業務の可視化・改善力実態調査」について

本調査は、事業環境、企業業績、IT投資、組織能力、可視化・改善サイクルなどの関係を捉える目的で実施いたしました。今回はパイロット調査との位置づけで、妥当性が高いと考えられる仮説を抽出いたしております。次年度以降、より実践的活用度の高いコンセプト開発につなげる予定です。

### ◆ 日本BPM協会とは

BPMは、ビジネス・プロセス・マネジメントの略で、業務の可視化・改善サイクルを通して、業績向上、ガバナンス強化、業務の変化対応力向上を実現することです。

日本BPM協会は、2006年に設立された産・学・官の有識者と多数の企業を会員とする非営利団体です。BPMの価値と必要性を確信する組織・有識者と共に、その普及・啓蒙と基盤的課題の解決を図り、日本企業のグローバル化、俊敏化促進に資することをミッションとします。また、プロセス志向イノベーション推進会議および「業務の可視化・改善力に関する実態調査」の事務局も務めております。

### ◆ プロセス志向イノベーション推進会議とは

プロセス志向イノベーションは、企業のイノベーション機会に対して、仕事のつながりを自在にデザインし、ITを有効に活用して新しいビジネスモデルを実現することです。本会議は、このプロセス志向イノベーションによる企業改革に関する調査研究・提言機関として、日本BPM協会を事務局に、2008年に発足しました。メンバーは企業経営者およびプロセス志向イノベーションに関する有識者により構成されます。

議長は、飯島淳一氏(東京工業大学教授、経営情報学会アドバイザーボード議長、経済産業省 CIO戦略フォーラム 副委員長)です。

### ◆ 本リリースへのお問合せ先

日本BPM協会 事務局 横川、岸田 TEL 03-3434-3545 FAX 03-3434-6430

以上